百日咳の発生動向について

百日咳（ひゃくにちぜき）は、百日咳菌の気道感染によって引き起こされる急性呼吸器感染症であり、特有のけいれん性の咳発作を特徴とした、子供に多くみられる感染症です。

感染した場合の症状は、成人が無症状か、比較的軽く済む場合が多いのに対し、１歳児以下は重症、特に生後６ヶ月未満の子供は死に至る危険性が高くなります。

感染症発生動向調査※によると、県内の百日咳は 2008 年から患者数が増加し始め、2009 年も増加傾向が続いています（図１）。

また年齢階級別割合では、全国的に 20 歳以上の患者の占める割合が年々高くなる傾向にあります（図 2）。この傾向は沖縄県でも同様にみられ、成人の患者が子供よりも多く報告されています（図 3）。

成人が百日咳に感染した場合、本人が気づかないうちに乳幼児への感染源となることが懸念されます。

子供が百日咳に感染しないように予防するには、予防接種が有効です。予防接種法に基づく定期予防接種として、DPT 三種混合ワクチン（ジフテリア、百日咳、破傷風）の接種を受けることができます。接種スケジュールについては、お住まいの市町村予防接種担当課に相談し、接種対象年齢になったら、なるべく早くワクチンを接種するようにして下さい。

※感染症発生動向調査・・・感染症法に規定された疾患の患者がどのくらい報告されたかを調査集計したものです。過去のデータとの比較分析した情報を沖縄県感染症情報センター（http://www.idsc-okinawa.jp/）で公開しています。

【企画管理班】

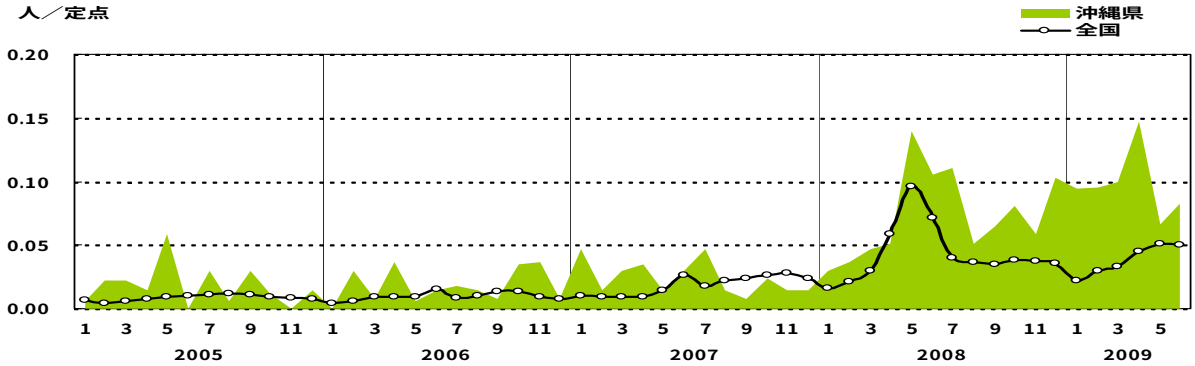

図 1．百日咳の患者報告数（2005～2009 年 6 月末現在）

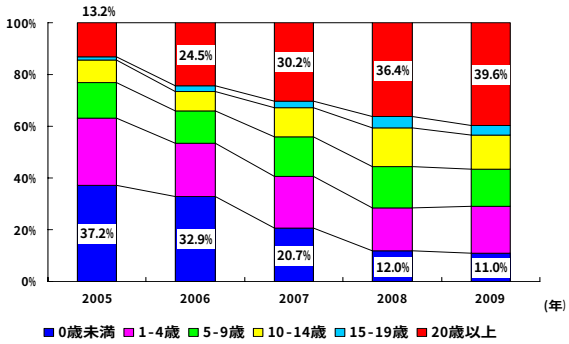

図 2．百日咳の年齢階級別割合（全国）

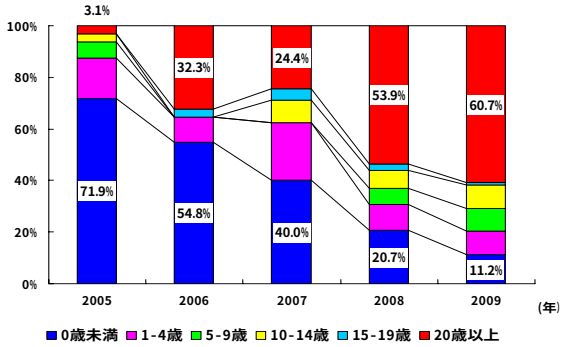

図 3．百日咳の年齢階級別割合（沖縄県）